

# 一般社団法人 日本画像学会 第 60 回定期総会議事録

日時： 2017 年 6 月 20 日（火） 12：45～13：45

場所： 学術総合センター（一橋講堂）

出席： ・社員（委任状による者を含む）：497 名

- ・役員 会長 面谷 信
- 副会長 佐藤 利文、三矢 輝章
- 理事 伊丹 明彦、梅津 信二郎、大西 勝、大橋 豊史
- 酒井 真理、傳田 聡、服部 好弘、藤井 雅彦、吉田 稔
- 飯野 裕明、木下 周三、小林 範久、田中 作白、佐野 隆弘
- 内藤 裕義、中島 一浩、中山 信行、長山 智男、西野 俊夫
- 中澤 雄夫、南 毅弘、青木 彦治（記録）
- 監事 中居 達、校條 健
- ・顧問 北村 孝司、高橋 恭介
- ・事務局 竹内 達夫、山崎 弘、鈴木 弘治、野田 明彦、西原 容子

## <議事>

### 1. 開会の辞（中山運営委員長）

- ・定刻になったので只今から第 60 回定時総会を開催する。
- ・第 1～3 号議案が審議承認案件、第 4 号議案が報告案件である。

### 2. 会長挨拶（面谷会長）

- ・学会の会員増を重要課題として取組中。その為の方策として 3 つを挙げている。学会の魅力度の向上（インクジェット技術交流会やデジタルファブリケーション技術交流会の会員募集開始）、第 2 の方策は学会守備範囲を拡大して会員増を図る内容として、MBD (Model Based Development) 関連交流会を実施した。第 3 の方策としては他学会との連携として、日本視覚学会との連携を検討している。
- ・学会活動の概要としては、2017 年度春季年次大会も 4 学会連合大会で開催できた。2019 年には第 2 回の ICAI を開催予定。日本視覚学会との連携では 6 月 21 日特別セッションを開催する。学会の収支としては 2016 年度は黒字化を達成した。
- ・2017 年度の活動としては、2018 年度が学会創立 60 周年、よって ICJ を中心に各種の企画を準備している。学会誌 60 周年記念号の発行、記念出版（画像処理・有機感光体・インクジェット改定版、3D など）も予定している。また、60 周年に合わせて学会の Vision を検討するために委員会を立ち上げた。その中では Vision55（学会創立 55 周年時に作成）を踏まえ、開拓強化項目を選定してアクションプランを策定する。

### 3. 定足数の確認・報告・議長選出（中山運営委員長）

#### ①定員数の確認・報告

- ・定款第 13 条において総会成立は会員の過半数の出席が要件になっている。現在の会員数は 861 名（学生会員省く）なので定足数は 431 名となる。
- ・本日は、ハガキ/WEB による既議決者数 26 + 同委任者数 460 + 本日の出席者数 37 = 合計 523 名であり定足数 431 名を上回り、定時総会は成立することになる。

#### ②議長選出

- ・定款第 15 条により総会議長は会員の中から選出することになっている。
- ・本日の参加者から議長を募ったが希望者は無し。よって、運営委員会から本学会の面谷会長を議長に推薦。賛成多数で承認された。

### 4. 第 1 号議案：2017 年度役員案【審議・承認】（中山運営委員長）

- ・定款第 23 条により当学会の役員任期は 2 年であり 1 年毎に半数を改選することになっている。
- ・役員承認（総会資料 P1 を参照）  
2016 年度改選候補（任期：2016 年 6 月－2018 年定時総会まで）  
役員候補 28 名（理事候補 26 名、監事候補 2 名）、内新任 12 名留任 14 名
- ・その他、退任役員等の紹介（総会資料 P1 を参照）  
2016 年度で退任理事 4 名  
2017 年度の幹事 2 名、顧問 8 名

#### \* 第 1 号議案に審議結果

##### 2017 年度役員案について、賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成 25 票、反対 1 票、議長委任 460 票）

### 5. 第 2 号議案：2016 年度事業報告【審議・承認】（中山運営委員長）

- ・今回も配布資料の読み上げではなく主要 5 委員会に絞り、スライドを用いた活動報告とさせて頂く。また、時間の関係上、運営委員長から 5 委員会の委員長を代行して報告する。
- ・以下 5 委員会以外の活動報告は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい。

#### (1) 編集委員会（美才治幹事）中山理事代行

##### ①組織

- ・編集委員会 6 回（内 1 回は合宿、神戸で実施）開催
- ・CD 活動にて 90 万円（予算の 90%）の財務改善
- ・学会創立 60 周年記念号に向けて WG 活動開始
- ・電子版配信（学会誌、連合会合同要旨集）に向けた活動を広報委員会と開始

##### ②学会誌

- ・年 6 冊を定時発行、委員サービス向上策として ICAI2016 論文特集や“Imaging Today”強化を実施し充実化（掲載数増）を促進

- ・12月号クラスタ論文では、Science & Technology of Ink を特集し英文論文/解説計10編を掲載

### ③その他の活動

- ・フリートーキング2回開催

第29回(7/8 早稲田大学):「プリンティングを支えるポリマー材料」参加者28名

第30回(3/17 早稲田大学):「産業用インクジェットプリンタ技術」参加者159名

## (2) 技術委員会(佐藤副会長) 中山事理代行

### ①研究会

- ・第127回(7/6)「サーマル技術の基礎と未来」～微細な熱源の可能性～:サーマル記録技術部会(参加者44名+講演者・委員)
- ・第128回(9/30)「インクジェットインクの基礎から応用」-技術の誕生、進化、将来:インクジェット技術部会(参加者134名+講演者・委員)
- ・第129回(10/21)「プリンテッドエレクトロニクスと電子ペーパーの新展開」:電子ペーパー/フレキシブル技術部会(参加者47名+講演者・委員)
- ・第130回(10/28)「トナー技術&イメージング材料技術の基礎を理解する」:トナー技術部会(参加者65名+講演者・委員)

### ②シンポジウム・合同研究会

- ・シンポジウム(12/2)「プリンティングの未来を創造するイノベーション」～商品企画、研究開発からフィールドサポートまで～:電子写真技術部会(参加者89名:講演者・委員含む)

### ③討論・交流

- ・主査会議(12/19、1/25:各部会主査)、総会(1/25:各部会員約70名)開催

### ④部会活動の活性化と一般会員の参加機会拡大、若手技術者の育成

- ・インクジェット部会がインクジェット技術の展開を目的としたコミュニティ「インクジェット技術交流会」を設立した。デジタルファブ리케이션部会も技術交流会立上げを進めている。

### ⑤学会間交流

- ・日本視覚学会との学会間コラボレーションに関するブレインストーミングを開始した。

## (3) 企画委員会(酒井理事) 中山事理代行

### ①イメージングカフェ

- ・東京地区9回(スペシャル2回)、関西地区2回開催
- ・延べ380名参加(会員203名、非会員120名、委員57名)

### ②イメージングカフェ5周年、50回記念企画

- ・50回記念「人生画像三昧」東京大学名誉教授 原島博先生
- ・ICJ2016 ワークショップ「イメージングの未来を語ろう」

(4) コンファレンス委員会（三矢副会長）中山理事代行

① Imaging Conference JAPAN2016

- 「日本画像学会研究討論会」（第 117 回） 日本画像学会年次大会
- ・開催日：2016 年 6 月 8 日（水）、9 日（木）、10 日（金）
  - ・場所：東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホール
  - ・運営幹事会社：富士ゼロックス株式会社
- 「実行委員長：大西康昭氏、同副委員長：中山信行、藤井雅彦」
- ・日本写真学会との併催にて実施

(5) 事業委員会（大橋理事）中山理事代行

① 第 80 回技術講習会「R&D の最前線から学ぶ画像技術の基礎と将来展望」

- 日時： 2016 年 6 月 23 日（木）、24 日（金）
- 会場： 東工大すずかけ台キャンパス すずかけホール
- 参加者数： 124 名 ※（ ）内は昨年実績
- 正会員・維持会員：96 名（120）、非会員：28 名（36）、学生:0 名（1）

② 第 1 回「電子写真技術チュートリアル」

- 日時：2016 年 11 月 17 日（木）
- 会場：京都工繊大
- 参加者数：16 名

<トピックス>

電子写真技術総覧、現像プロセス、定着プロセスの 3 テーマで実施。事前資料配布（1 ヶ月前）& 事前質問受付を実施、講演会形式ではない対話型形式の講習会（チュートリアル）に大変満足、よく理解できたとの高評価を頂く。

**\* 第 2 号議案の審議結果**

2016 年度事業報告について賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成 25 票、議長委任 460 票）

**6. 第 3 号議案：2016 年度決算案・監査結果【審議・承認】（服部財務委員長、中居監事）**

- ・この場合は収支計算書、貸借対照表を中心に説明する。詳しくは配布資料を参照頂きたい。
- ・収支計算概要
  - ・当初予算に対して事業収支が約 640 万円のプラス
  - ・事業収支絶対額は約 310 万円の黒字
- 事業活動収入詳細
  - ・正会員数が回復基調に届かず
  - ・研討、研究会：参加費、講習会参加費が予算未達
  - ・試験標準品頒布収入：大口受注により増加
  - ・広告収入：学会誌掲載広告件数により増収
- 主な事業収入の推移
  - ・会員数は僅かずつだが減少傾向が続いている
  - ・講習会、研討、研究会は山谷あるも平年並を維持

事業活動支出詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験標準品は周期的に需要がある</li> <li>・会誌、講習会は経費節減等により支出減</li> <li>・試験標準品は大量受注を受け製作費増</li> <li>・事務経費は節減、人件費が課題</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会資産の推移（預貯金&amp;現金）：微増傾向にあり、2016年の資産の推移は健全といえる</li> <li>・2016年度監事監査報告</li> </ul>	
監査方法の概要	<p>監査は、理事会、評議委員会、その他重要な会議に出席するほか、日本画像学会の関係者から事業の報告を聴取し、重要な書類の回付を受け学会における業務及び財産の状況を調査致しました。また、日本画像学会の関係者および財務委員会からの報告および説明を受け、監査委員会を実施して収支決算書および貸借対照表について監査を実施致しました。</p>
監査結果	
業務監査の結果	<p>日本画像学会の業務については、日本画像学会の年度計画、事業計画等に基づき適正に運営されていると認めます。</p>
会計監査の結果	<p>2017年5月8日に監査委員会を実施した結果、服部財務委員長により説明があった、2016年度日本画像学会収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は必要な事項を正しく示していると認めます。</p>

**\* 第3号議案に審議結果**

**2016年度決算案、監査報告について質疑特になく賛成多数で承認された。**

（事前投票：賛成 25 票、反対 1 票、議長委任 460 票）

**7. 第4号議案：2017年度事業計画/財務計画/年間予定【報告】（中山運営委員長、服部財務委員長）**

**2017年度事業計画（中山運営委員長）**

- ・第2号議案の2016年度事業報告同様、主要5委員会の2017年の活動計画について運営委員長が代表して報告させて頂く。
- ・活動計画に続き、2017年度財務計画について財務委員長より報告させていただく。
- ・5委員会以外の活動計画は配布資料を参照頂き、質問等はお願いした。

**(1) 編集委員会（美才治幹事）中山理事代行**

**①組織**

- ・編集委員会
  - 偶数月の定例委員会を6回開催
  - 5月に年間計画立案の合宿を京都で開催
- ・学会創立60周年記念事業推進委員会
  - 2018年2月記念号発行に向けWG活動にて編集作業を遂行

- 広報委員会と連携した電子版配信の基盤構築推進
- ・ 連合会編集委員会の連携
  - 合同要旨集発行の具現化推進
- ・ 査読体制の増強
  - 技術委員会との連携
- ・ 技術委員会各部会との連携
  - 部会企画情報（開催案内/報告）の学会誌での発信
  - 研究室訪問等コラボレーション推進

## ②学会誌

- ・ 年 6 冊の定時発行
  - 会員サービス向上の継続と発行コストダウン施策継続
  - 年 1 回の英文クラスタ論文特集号を継続
  - Imaging Today/Advanced Technology ,Imaging Highlight,教育講座,研究室訪問の掲載を継続
  - 連合会関連記事の企画
- ・ 会員アンケートなどによる質の改善

## ③その他の活動

- ・ フリートーキング開催
  - 第 31 回、第 32 回を企画、開催予定
  - 収支改善施策を増強
- ・ 連合会合同英文誌の再構想

## (2) 技術委員会（佐藤副会長）中山理事代行

### ①研究会等の予定

2017 年

- 9 月 22 日（発明会館）：インクジェット技術研究会
- 10 月 20 日（化学会館）：電子ペーパー/フレキシブル技術研究会
- 10 月 28 日（印刷会館）：トナー技術研究会
- 12 月 2 日（発明会館）：電子写真技術シンポジウム

### ②活動予定

- ・ 技術交流会の推進
- ・ 日本視覚学会との学会間コラボレーション
- ・ 画像評価技術部会のあり方再検討
- ・ 主査会議（2 回）、技術委員会総会の開催

(3) 企画委員会（酒井理事）中山理事代行

① イメージングカフェ

- ・月1回程度のスペースで年間11回
- ・スペシャル2回
- ・東京と関西で開催

② シンポジウム（東京）リニューアル

- ・12月に開催してきたシンポジウムの位置付け確認
- ・技術横断的テーマ、新技術・境界領域の開拓

③ ICJ ワークショップ運営

(4) コンファレンス委員会（三矢副会長）中山理事代行

① Imaging Conference JAPAN2017

「日本画像学会研究討論会（第119回）」：日本画像学会年次大会

- ・開催日：2017年6月20日（火）、21日（水）、22日（木）
- ・場所：学術総合センター 一橋大学一橋講堂
- ・運営幹事会社：株式会社リコー

〔実行委員長：村山久夫氏、同副委員長：長山智男氏、一宮孝司氏〕

- ・4学会合同（日本印刷学会、日本写真学会、画像電子学会、日本画像学会）実施

② コンファレンス委員会（2016年度3月時点）

委員長：三矢（リコー）、委員：大西（ミマキ）、小林（千葉大学）、木村（富士ゼロックス）、竹内（日本画像学会）、岸（リコー）、中山（富士ゼロックス:2016年ICJ副実行委員長 兼務）、長山（リコー：2017年度ICJ副実行委員長）

(5) 事業委員会（大橋理事）中山理事代行

若手／中堅技術者育成に繋がる活動を行う

① 第81回技術講習会 2017年7月13日（木）14日（金）すずかけホール

- ・「基礎教育講座」の拡充、各論の深掘り、展示会社イベント
- ・「基礎知識の習得と深化」を実感できるプログラム作り、講習内容の充実

② 第1チュートリアル 2017年11月 ICJ-Fallと同時開催予定

- ・講師と直接議論しながらの特別セッション
- ・好評につき、第2回は「電子写真技術」と「インクジェット技術」の2テーマを実施予定
- ・定員は15名程度

## 2017 年度財務計画（服部財務委員長）

- ・ 2017 年度予算編成方針（1）
  - \* 2018 年度学会創立 60 周年を迎えるにあたって、会勢を立て直し、復調を図る仕組みを盛り込んだ予算立てを行う。
  - \* 正会員会費収入は、会員数減を食い止め、増員を目指す。  
維持会員会費収入は、口数現状維持とする。
  - \* 研討、研究会、および講習会参加費は近年での実績値の高かった年度を手本として、それを上回ることを目標とする。
  - \* 試験標準品頒布収入は山谷の「谷」水準を見込む。
- ・ 2017 年度予算編成方針（2）
  - \* 会誌発行費は 60 周年記念号発刊による費用増を見込みつつ、工程の見直しによる経費削減を盛り込む。
  - \* 研討、研究会開催費は ICJ 会場関係費増の計上および新規催しへ対応した予算とする。
  - \* 60 周年に向けた新規出版予算を計上する。
  - \* 事務費の漸増傾向を業務委託支出を監視抑制することで削減する。
  - \* 事務員費は、繁忙期に臨時雇用する体制をとり、固定費を抑制する。
  - \* 前年度方針に倣い、国際会議準備基金（特定資産）積立てを計上する（積立額 50 万円/年）。
- ・ 収支予算概要
  - ・ 事業活動収支は 35 万円の黒字予算
  - ・ 事務局 MFP、プリンター更新
- ・ 事業収支詳細
  - ・ 正会員数漸減、増員基調を目指す
  - ・ 研討、研究会会参加費は 2014 年度実績 +  $\alpha$  の参加者を目指す
  - ・ 講習会参加費は 2015 年度実績 +  $\alpha$  の参加者を目指す
  - ・ 試験標準品需要は谷間の想定
  - ・ ICJ 共催団体からの寄付金収入
- ・ 事業支出詳細
  - ・ 会誌発行費はコストダウン + 60 周年記念号増ページを盛り込む
  - ・ 研討、研究会開催費は一橋記念講堂会場費増 +  $\alpha$
  - ・ 出版物作成費は 60 周年に向けて新規出版を着手
  - ・ 事務費は委託業務の監視、見直しにより削減
  - ・ 事務員費は繁忙期に臨時雇用として固定費削減
- ・ 投資活動、財務活動収支
  - ・ 器具備品取得支出 事務局 MFP、プリンター老朽化により更新（5 年で償却）

### **\* 第 4 号議案の質疑応答結果**

2017 年度事業計画、予算報告についての質疑応答は特になかった。

8. 質疑応答 (面谷会長)

- ・投票の際にコメントを記載したこと、その主旨は、連合会、理事会などの情報の展開/共有をしっかりやっていただきたい点であるとの意見が提示された。コメント内容を確認して適切に対応するとの回答がなされた (運営委員長)。

以上をもって面谷会長は議長を退任

9. 閉会の辞 (中山運営委員長)

これにて日本画像学会第 60 回定時総会を終了する

2017 年 6 月 30 日

一般社団法人日本画像学会 2017 年度総会議事録

総会議長

面谷 信



議事録署名人

中山 信行



青木 彦治



議事録作成者

竹内 達夫

